

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番59号		
自己評価作成日	平成26年9月13日	評価結果市町村受理日	平成26年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『笑顔と思いやり』の理念に基づき、笑顔でほのぼのとした雰囲気の中で、和気あいあいと楽しく生活ができ、ご家族や利用者様に満足していただけるような愛情ある真心のこもったお世話を心がけています。  
また、町内会や近隣の方々とのつながりを大切に、利用者様が安心して楽しく暮らせるように努めています。

利用者様の可能性を見だし、望むことへの支援をできるだけ取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほのぼの月寒」は、複数の路線バスが走る幹線道路の停留所から徒歩5分ほどの住宅街に位置しており、今年秋に開設9年目を迎える2ユニットのグループホームである。「ほのぼのとした雰囲気」「質の高い介護サービス」「地域とのつながり」などをキーワードとした理念を実践している。管理者は、豊平区管理者連絡会の会長を今年の4月まで務め、また豊平区地域包括支援センターの運営委員として市町村と連携を図りながら、地域ケアを推進している。前回の目標達成計画の課題であった「身体拘束をしないケアの実践」では、昨年の11月に社内共通の「共通基礎研修」マニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会を設け、禁止の対象となる具体的な行為を理解している。職員の半数以上が経験年数5年以上であり介護福祉士の有資格者も多く、職員の定着率も高い。職員は、感染予防などの委員会や係りを担当し、意見や提案を運営に反映させている。日常生活の場面で、「どこか行きたい所はありませんか?」「何かしたいことはありませんか?」と話しかけることでご本人の意向を引き出し、馴染みの人や場との関係継続を支援している。また、旬の食材や農家から購入した新鮮な野菜を使い、ホットプレートで焼き物をしたり、鍋物などの食事をおとして季節感を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の『笑顔と思いやり』に基づき、明るくほのぼのとした雰囲気を全職員が心がけている。	利用者が笑顔でほのぼのと過ごせるよう、家庭的な環境づくりをしている。職員は、利用者が主体であることを認識し、自然体でゆったりと笑顔で接している。理念は、玄関とフロアに掲示しネームプレートにも明示し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のごみ清掃や町内会議の参加、運営推進会議に町内会役員や民生委員にも参加していただき、地域住民の一員として常に接点を持つように心がけている。	主に町内会の行事に参加することで地域とのつきあいをしている。10月に地区センターで行われる「健康フェア」には、利用者6名ほどが参加予定である。在宅で介護をしている家族の相談対応もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当グループホーム入口に認知症に関する悩みや相談窓口の案内を掲示し、地域の方々から認知症の相談・見学も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動報告や利用者様の状況を報告し、各立場の参加者の意見やアドバイスを大事にし、サービスの向上につなげている。	家族、町内会班長、民生委員、地域包括支援センター、有識者らが参加している。災害対策の議題では、消防署員から助言を得ている。終了後に利用者と一緒に食事をしたことで認知症の理解が深まっている。今後は、利用者の参加を検討する予定である。	案内と議事録を全家族に配布されることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは札幌市や豊平区管理者連絡会等で日ごろから連絡をとる機会が多く、当施設の利用者様の状況やニーズを伝え連携を深めるようにしている。	管理者は、豊平区管理者連絡会の会長を今年の4月まで務め、また豊平区地域包括支援センターの運営委員として市町村と連携を図りながら、地域ケアを推進している。また介護計画に反映させるため、市町村から主治医意見書や認定調査票を取り寄せている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については資料や外部研修等で職員は理解し、身体拘束廃止委員会を設けて実践している。玄関の施錠は夜間のみ防犯のため施錠し、日中はセンサーチャイムを活用し常に出入りできるように施錠はしていない。	昨年の11月に社内共通の「共通基礎研修」マニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会を設け、禁止の対象となる具体的な行為を理解している。5月には、スピーチロックに関するアンケートを行い身体拘束を再認識している。アンケートによる学習は、今後も継続していく予定であり、外部講習の参加は、調整中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に虐待について社内勉強会を開き、全職員が虐待防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方は居ないが、今後、必要と思われるときには随時、管理者より職員に説明し、制度の再認識を心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき、ホーム内で出来ること出来ないことを明確に説明し、利用者様の状態変化等により解約・改定に際しては十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には要望や意見等をたずね、どのようなことでも話せるような雰囲気づくりに努めている。	来訪時に話し合われた内容は、共有が必要な場合は、連絡ノートに記録している。家族の意見から介護に対する思いを学ぶこともある。今後は、家族会をつくり利用者、家族等の意見を反映させたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員と個別に面談し、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、管理者は日常の中で意見や要望・相談を受けて運営に反映させるように努めている。	職員は、感染予防、食事、行事などの委員会や係りを担当し、意見や提案を運営に反映させている。出勤時のタイムカードは、管理者が常駐している事務所にあるので、その都度声をかけ職員の思いや考えを把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得における支援や、それに伴うお祝い金を出すなど向上心を持って働きやすい環境づくりに努めており、新年度より人事考課制度を導入し、職員の給与体系の見直し検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が出来るだけ研修に参加できるように機会を設け、社内においても研修委員を選定し、毎月のフロア会議の場において研修時間を設け実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は関連事業所と定期的な会合の場があるが、職員は同業者との交流はほとんど皆無であり、今後区内のグループとの交換研修等を検討しサービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に、ご本人と面会し、今後の希望や要望などを聞き、安心して生活していただけるように説明し信頼関係を深めるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、これまでの経過や、ご家族より希望や困っていること、要望などを聞き、こちらができることの内容や考え方を説明し、ご家族が安心して任せていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所を前提に相談を受けた際に、本人やご家族との会話の中で、必要としている支援を見極め、他のサービス利用につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様は家族の一員のように、家庭の延長としてとして考え、共に助け合いながら暮らしを共にする関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来訪時や、電話連絡の際、日ごろの状態や変化をこまめに報告、または相談し、ご家族と情報を共有することにより、共に利用者様を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠く離れて生活している親戚や友人、知人がホームに尋ねてこられる方を大切にし、継続的な交流ができるように努めている。 また、ご家族の命日のお墓参りや、馴染みの美容院、病院への同行など、一人ひとりの生活習慣を尊重し支援に努めている。	家族には、利用開始時に馴染みの人や場との関係継続の支援ができるよう説明をし、協力の依頼をしている。「どこか行きたい所はありませんか?」と問いかけたところ「お墓参りに行きたい」とのことで家族に相談し実現したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の日常の関係や、心身の状態の様々な変化等を見守り、利用者様同士がお互いに理解しあい仲間意識を深めて生活していけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去されて医療機関で治療されている方を見舞ったり、他施設へ転居された方を時には訪問し、その時の情報をご家族に提供し、必要に応じて相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のコミュニケーションの中で、ご本人の思いや意向を聞くようにし、意思疎通の困難な方にはご家族から情報を得、希望や意向の把握に努めている。	基本情報(アセスメントシート)とセンター方式のシート(私のできること・できないこと)を使い、思いや意向を把握し、随時更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や見学時にご本人またはご家族からこれまでの生活やサービス利用の経過などを詳細に聞くようにし、入居後のサービスにつなげるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ることの見極めが難しく、職員が支援してしまうケースが多々あり、その時の利用者様の状況と気持ちを察しながら支援に努めていく必要がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族とは日常の会話を通じ、思いや意見を聞き、介護支援専門員の適切な指導の下に職員が話し合いやモニタリングにより、現状に即したサービス計画を作成している。	日常生活の場面で、「どこか行きたい所はありますか?」「何かしたいことはありませんか?」と話しかけることで本人の課題を引き出している。毎月モニタリングの会議を行い介護計画を見直し、家族や心身の状態に応じて本人にも説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様の表情がわかるように記録し、申し送りにて職員間で情報を共有している。また、現在「気づきノート」を作成し、個々に日常の気づきを記入、今後の介護支援と介護計画に反映させるように進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の職員対応をはじめ、季節に応じた外出や、趣味・嗜好に応じた買い物、ご家族との温泉旅行、職員同行のお墓参りや外食、自宅への一時帰宅の送迎支援など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域包括支援センターの職員や民生委員、地域の消防団員の方が参加されており、周辺の情報や協力関係が築かれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診は全て職員が対応し、ご本人やご家族の希望する医療機関を優先して受診するように支援している。また専門診療科目を有する医療機関には関係を密にし、適切な医療が受けられるように支援してしている。	入居前からのかかりつけ医である循環器や脳神経外科、精神科などの受診を支援している。職員が受診の介助をしており、結果は個別の受診記録に記録し、家族には電話にて報告をしている。	

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内に常駐の看護師は配置していないが、毎週の訪問看護師とは常に利用者様の健康管理や状態変化を職員が気軽に相談し、主治医への情報提供とその後の指導や受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には利用者様の治療方針や、入院後の経過や情報交換を行い、退院計画も含めた相談を定期的に主治医や看護師と話し合い、病院関係者との関係づくりと退院支援に結びつけている。また、必要に応じてご家族を交えた話し合いの場を設けるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期ケアの対応方針を契約時に家族に説明し、重度化した場合は主治医と話し合いの場を設け対応していきたい。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づき利用開始時に説明をしている。看取りをすることがグループホームの役割と考えている。事業所として、職員の勤務体制や家族の意向、医師の判断などを基にチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、年2回の救急法や心肺蘇生術の実地訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と近隣の地域住民の協力を得て、職員全員を対象に定期的に避難訓練を実行している。	年2回夜間を想定した火災の避難訓練を行い、地域との協力体制を築いている。昨年の7月に防災委員会を設け、随時検討している。前回の目標達成計画の課題であった調度品類の転倒防止、備蓄品類の補充は行っているが、冬季の備えが不十分とのことである。	地震を想定した避難訓練の実施と、冬季に必要な備蓄品類の補充をされることを期待したい。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の尊厳を大事にし、ご本人の気持ちを考えて言葉かけや対応に配慮している。	利用者に話しかける時は、親しみを込めながらも馴れ馴れしい言葉遣いに注意している。書類は事務所やスタッフルームに保管し、記録を書く時も個人情報に配慮しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた言葉かけや説明を行うようにしており、できるだけ利用者様が自己決定できるように働きかけている。意思表示のできない方は表情を伺いながら意思決定を図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日やその場の状態により、希望を聞いたり相談しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容は声掛けや支援により行われており、理・美容は訪問理・美容をお願いしている。また馴染みの美容院に行かれる利用者様や化粧品、洋服やおしゃれ用品は職員が同行し支援している。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1F)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、準備、片付け等々その方の残存機能に合わせて無理強いしない程度に職員と一緒にいき、食事の楽しみにつなげている。	行事や誕生日には食材業者の献立を中止して職員による握り寿司やラーメンの出前を取り寄せ、全員、また数人で外出に出かけている。朝もぎのアスパラなど特に旬の食材を取り入れて季節感を味わい食事が楽しめるように趣向をこらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材がサービス業者より毎日納入されており、水分提供はチェック表にて個別に管理し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを対応しており、毎週の訪問歯科により全員が個別の口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパット使用中の利用者様個々の排泄パターンを職員がチェックし、できる限り布パンツへの切り替えを検討し排泄支援に取り組んでいる。	トイレでの排泄を行い、できるだけ日中は布パンツとパッドに切り替えて、失敗がないように声掛けで行動を促している。介助が必要な方には間隔や落ち着かない様子を見て誘導し、職員2人で排泄を介助することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックに注意し、主治医及び訪問看護のアドバイスと食事や水分、運動による便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を問わず午前・午後の時間で入浴を設定、利用者様の希望や状況に合わせた柔軟な入浴支援を行っている。入浴の嫌いな利用者様には言葉かけや対応を工夫しながら入浴支援を図り、間隔が空くようであれば清拭で対応している。	午前10時半～午後4時頃迄の時間帯に、希望や状態に応じて週2回以上の入浴を支援している。入浴中は歌を唄ったり、入浴剤の森林浴でゆったり入っている。近隣の「つきさむ温泉」に友人と一緒に職員員の同行で出かける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活習慣を大事にし、その時の状況に応じて安心して休めるように支援している。また、日中はその人に合わせて午睡したり日中の活動に配慮し、心地良い就寝に結びつくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的と副作用はある程度理解しており、常に症状の変化に注意し、必要なときは医師、看護師、薬剤師と連携をとり、情報の共有と確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いにならないように、その人に合った個々の楽しみや過ごし方を職員間で話し合っ声掛けをし支援している。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って個別に戸外に出かけ、歩行困難な方は車いすでの散歩や社用車によるドライブ、職場の買い物等と一緒に出かけるなど積極的に外出するように心がけている。また、ご家族同行による外出も協力し支援している。	普段は交代で近隣を散歩をしたり、玄関前で団欒をして外気に触れている。車で公園の藤棚や近くの水芭蕉を見学するなど、出かける機会が多いが、更に外出を増やしたい意向もある。冬季にも買い物ツアーとして、食事を兼ねた大型店でのショッピングや水族館に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人の利用者様がお小遣い程度のお金を所持しているが、その他の利用者様は事業所管理である。外出時の買い物時の支払いには、お金を理解できる方にはご自分で支払っていただき、お金を持つことの大切さを実感していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の受け渡しや、こちらから声をかけて電話をかけてあげるなどの支援をしている。手紙のやり取りはほとんどの方が執筆が難しく該当者はいないが、今後職員の協力により一緒に絵手紙などを作成し支援に結び付けていきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングルームは照明やカーテンによる調光に配慮し、ソファーやテレビの配置等を考え家庭的な雰囲気を出すように努めている。	共用空間の居間はスタッフルーム、台所、食堂が一体化しており、また廊下幅もあるので全体的に広々としている。壁には季節の装飾や利用者と一緒に作った作品、行事の写真などが飾ってある。家具などの調度品は家庭的で団欒が楽しめる雰囲気にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関先に木製のベンチを置き、一人で過ごしたり、気の合った人と一緒にくつろぐ時間が過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた馴染みの家具やご本人の好みの身の回り品を置いて居心地良く過ごせるように工夫している。	各居室には馴染みの単筒、テーブル、座椅子などの家具類や仏壇、テレビ、小物類が持ち込まれている。趣味の作品や家族の写真などを飾り、生活感のある個性的な居室づくりで、居心地よく過ごせるように工夫してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりの設置やバリアフリーを取り入れて安全を確保し、場所(自室、WC)の把握ができるようにプレートを設置するなど、できるだけ自立した生活が送れる工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番59号		
自己評価作成日	平成26年9月13日	評価結果市町村受理日	平成26年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念や運営方針に基づいて、ほのぼのとした日々が送れるように毎日の業務にあたり、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会議、町内会清掃参加、火災避難訓練時に町内会役員や近隣の住民の協力を得る等、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム玄関わきに、認知症に関する悩みや相談の受け入れ案内を掲示し、地域の皆さんに相談窓口を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動報告や利用者様の状況を報告し、各立場の参加者の意見やアドバイスを大事にし、サービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは札幌市や豊平区管理者連絡会等で日ごろから連絡をとる機会が多く、当施設の利用者様の状況やニーズを伝え連携を深めるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は常に身体拘束に注意を払い、玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行い、日中は自由に外出できるようにしている。玄関にはセンサーを設置し、入外出時にはチャイムで知らせるように安全面に配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を中心に虐待防止について定期的な会合を持ち、毎日のミーティングや月例フロア会議で確認し、虐待防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を職員は理解しており、現在対象者はいないが、必要に応じて成年後見人制度の研修の場を設け再確認し活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき、ホーム内で出来ること出来ないことを明確に説明し、利用者様の状態変化等により解約・改定に際しては十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には必ず職員が日常の様子や健康状態をお話し、ご家族が意見や要望を出しやすいように配慮をしている。また話の内容により事務所で個別にお話を聞く場を設けるなど、話しやすい環境づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員と個別に面談し、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、管理者は日常の中で意見や要望・相談を受けて運営に反映させるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得における支援や、それに伴うお祝い金を出すなど向上心を持って働きやすい環境づくりに努めており、新年度より人事考課制度を導入し、職員の給与体系の見直し検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が出来るだけ研修に参加できるように機会を設け、社内においても研修委員を選定し、毎月のフロア会議の場において研修時間を設け実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社関連グループ施設の相互訪問による交換研修を行い、今後は同業施設見学などを行ないサービスの質の向上に向けて取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に、ご本人と面会し、今後の希望や要望などを聞き、安心して生活していただけるように説明し信頼関係を深めるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前にご家族と面談し、ご家族の不安や要望等を聞き、ご家族が安心していただけるように説明、必要に応じてサービスプランに盛り込み、サービスの向上に取り組んでいる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所を前提に相談を受けた際に、本人やご家族との会話の中で、必要としている支援を見極め、他のサービス利用につなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は同じ家族の一員のように考え、共に助け合いながら一緒に生活し、お互いに支えあい、穏やかな生活をモットーに過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ご本人の日々の出来事や職員が気づいたことがらをこまめに報告し、情報の共有により、家族と職員は一体に支援していることを伝え協力を得ている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との再会、行きつけのパーマ屋さんや温泉、命日やお彼岸のお墓参りや昔から通っている病院受診等々を大切にし、職員同行により支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、食事やおやつの時間に職員が同席し、会話を提供しながら利用者様同士の関係が円滑かつスムーズになるように仲介や橋渡しをし、調整役となって支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去されて医療機関で治療されている方を見舞いや、他施設に移られた利用者様に面会し、その時の内容をご家族に提供し、継続的な相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様担当職員が中心となり、利用者様から希望や要望を聞くように努力し、意思疎通の困難な方には周りの職員からの情報を参考にし、希望や意向に添うように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から、又はご家族の協力を得ながら、これまでの生活歴やサービス利用の経過等の情報を入手し、その人の理解に努めるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の日常生活の過ごし方や一日のリズム、心身状態、有する力の把握に努めサービスにつなげている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪のあるご家族からは現状を説明し、その方に即したの要望を取り入れ、毎月の70A会議の中で、職員全員がモニタリングに参加し介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の変化は個々の個人記録に記載し、“気づきノート”の作成により日常の気づきの大切さと職員間の情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の来訪時には利用者様と自室と一緒に食事をしていただきご家族だけの時間を設けたり、通院や緊急時の受診対応は事業所が支援し、ご家族には受診結果を報告するなど柔軟なサービス対応を心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議構成員に地域住民代表者、地域包括支援センター職員、地域の民生委員、消防署等の参加により情報交換や協力関係が得られるように構築されている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携する訪問診療(内科)と、毎週の訪問看護により、適切な医療が受けられるようになっており、ご本人・ご家族が希望する他の医療機関への受診も受けられるように支援している。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には常勤看護師はいないが、毎週の訪問看護師とは常に利用者様の状態変化を報告、相談し、適切なアドバイスをいただき、病院受診や健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはできるだけ多くお見舞いし、ご本人を元気づけ、主治医や看護師からは入院中の治療方針や経過、退院予定など話し合い、ご家族に情報を提供して情報の共有に努めている。また必要に応じてご家族、主治医との話し合いや相談の場を設けるなど病院との関係づくりに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にご家族や本人に事業所として出来る範囲を説明し、重度化した場合や終末期についてはその都度ご家族と話し合い、希望を取り入れながら支援することとしている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の火災避難訓練時に救急救命士による心肺蘇生法を受講し、全ての職員が実施できるように訓練している。応急手当の講習会は受けていないので、今後、応急手当や初期対応の勉強の場を検討したい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と近隣住民の協力を得ながら年2回の避難訓練を全職員が実施し、地域との協力体制を築いている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重したうえで、誇りやプライバシーを損ねないように適切な声かけや対応を心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた言葉かけや説明を行い、利用者様が自己決定しやすいように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望をできるだけ取り入れるようにし、希望の表現のできない方は表情やサインで読み取りその日の支援に結び付けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は定期的に訪問していただき、個別に好みの美容院でパーマをかけたり、化粧品の購入等に同行し身だしなみやおしゃれが出来るように支援もしている。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的に調理に参加する利用者様もいるが、調理の下準備や食器拭きや下膳など、その方の力量に合わせて無理なお願にならないように声掛けし、職員と一緒に楽しみながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食料会社よりカロリー計算された食材が毎日届けられており、利用者様の状態により個々に調理方法を工夫して提供している。また食事量・水分量は個別にチェック表で管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じた口腔ケアの対応をしており、毎週の訪問歯科により個別の口腔ケアと指導もいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、個々に紙パンツやパットを使用しているが、状態に応じてできる限り紙パンツやパットをはずし布パンツにするように心がけている。 また、自ら訴えない利用者様は定期的に声掛けし排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、繊維質の食べ物や乳酸菌の飲み物などを積極的に使用するようにしたり、歩行運動や体操の働きかけなどを行って便秘予防に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を問わず午前・午後の時間で入浴を設定、利用者様の希望や状況に合わせた柔軟な入浴支援を行っている。入浴の嫌いな利用者様には清拭対応などで衛生面の確保に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣に合わせて、利用者様の状況をみながら自室で休んでいただいたり、リビングでの休息に誘導するなど、状況を観察しながら一日の生活に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員管理となっており、職員は薬の目的や用法を周知しているが、必要に応じて利用者様の薬のファイルで確認するようにしている。また、服薬による症状の変化には常に注意を払い、服薬チェック表により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとって張り合いや喜びにつながる一日になるように職員は利用者様と相談し、又は職員同士が相談しながら支援している。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やご自分の洋服や化粧品の購入、パーマかけ、お墓参りなど一人ひとりの希望を取り入れて支援している。また、ご家族の協力により温泉旅行や外泊の支援も行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全て事業所管理だが、外出時の買い物の支払いは、ご自分でできる方には財布をお渡しして金銭の出しれをお願いし、お金を持つことの大切さを実感していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からの声掛けや、ご本人の希望により、職員がご家族や友達に電話を取り次ぎ会話を楽しんでいただき、手紙のやり取りの支援も行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングルームは照明やカーテンによる調光に配慮し、ソファーやテレビの配置等を考え家庭的な雰囲気を出すように努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーを配置し、廊下にはベンチを置いて、一人の時間や気の合った人と一緒に自由に会話や時間を過ごせるように工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、椅子、鏡台、仏壇、思い出の写真等々を飾られ、居心地の良い温かい雰囲気の居室づくりに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリー化されており、廊下やトイレ、洗面所、玄関等々手すりを設置、安全を確保している。また、居室ドアやトイレドアにはわかり易いようにプレートを貼り自立した生活が送れるように工夫している。			

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの月寒

作成日：平成 26年 10月 16日

市町村受理日：平成 26年 10月 29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○運営推進会議を活かした取り組み 2か月毎の運営推進会議では日々の活動報告、利用様の現況報告や意見交換等を行い、その議事録は出席者にのみ配布されている。また案内は構成員には配布されているが全家族には配布されていない。	運営推進会議の目的と趣旨を理解していただくための案内とともに運営推進会議議事録を全家族に配布し、事業所の取り組みや様々な課題等を共有し、利用者様へのサービス向上に努める。	運営推進会議の案内は、毎月のご家族へのお便りの中に案内欄を設けお知らせいたします。 また議事録配布は次回運営推進会議(12月)より実施いたします。	10月号 お便りより
2	35	○災害対策 夜間を想定した火災避難訓練を地域住民と消防署の協力により年2回実施しているが、地震を想定した避難訓練は行われていない。また備蓄品は順次揃えているが冬季の備蓄品類までは完全とはいえない。	防災委員を中心に地震に対する日ごろの備えや災害時の適切な行動がとれるように訓練し、防災と安全確保に努める。 また備蓄品類は冬季を想定した用品を洗い出し、冬季災害に備えます。	地震・防災マップによる勉強会と、地震を想定した避難訓練を近隣の消防署、住民の協力により実施いたします。 備蓄品類はリストを作成し、計画的に順次取り揃え追加するようにします。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。